

特集 アート 芸術の深化と進化

問文化課（☎内線4318）



第10回日本画公募展

前田青邨記念大賞

前田青邨は、中山道の宿場町として栄えた岐阜県中津川村（現中津川市）に生まれ、16歳で上京し梶田半古の門下生となった青邨は、画業一筋、秀でた才能と努力によって、独自の画風を築き、昭和30年には文化勲章を受章しました。

近代日本美術画壇の発展に大きな貢献を果たした青邨画伯の功績を顕彰し、日本画の創作活動を奨励するため、第10回前田青邨記念大賞を開催しました。全国各地から160点の応募（出品数145点）があり、厳選な審査によって、青邨記念大賞、青邨記念特別賞、審査員特別賞、奨励賞を含む入選作品40点を選ばれました。

青邨記念大賞

「夏の果」
瀬山 由起子
（大阪府）

審査員講評

たっぷりとした墨色を生かした白黒の量感のある世界に、可憐に舞う蝶の色彩が画面の外にまで飛び出してきそうな、錯然の世界が見事に表現されたとても魅力ある作品に仕上げられている。



青邨記念特別賞

「Lifehack」(左)
「夜に想う」(右)
宮城 教人
（兵庫県）

審査員講評

異色の2点の作品が同じ賞に選ばれるのはとても異例なことでしたが、この2点はそれぞれ多様性のある作品を描かれてきた前田青邨先生の青邨記念特別賞に相応しい立派な作品である。



審査員特別賞

「しゅはり 7月17日」
開藤 菜々子
（大阪府）

審査員講評

細部までとても丁寧に描かれており、抽象的な表現の中に描いたり削ったりの工夫もある。作家の制作に対する研究心がよく表れている作品に仕上がっている。



「造物者⑥」

張 淑楨（東京都）



「森のかがやき」

平野 義文（関市）



「秋の調べ」

池田 汐雪（神奈川県）



「どのみち」

田畑 奈那子（沖縄県）



「聲」

上岡 奈苗（三重県）



2025 こどもワークショップ



前田青邨記念大賞の関連イベントとして、生成AIを活用したワークショップを開催しました。
参加者自身が描いた画をスマートフォンやタブレットに取り込み、お願い事（プロンプト）を入力すると、生成AIが新たな画像を生成！
思いどおりの絵や、ちょっとおかしい絵などが生成され、参加者も大盛り上がり！
子どもならではのお願い事に、親御さんも感心しながら一緒に楽しんでいました。

関連企画

12月7日(日)まで

第Ⅱ期展

前田青邨記念大賞・歴代入賞作品展
「いのちの輝き」
ところ 熊谷権つけちギャラリー
※11月3日(祝)は入館無料